

霧島山（えびの高原^{いおうやま}（硫黄山）周辺）の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

<火口周辺警報（火口周辺危険）が継続>

本日（28 日）、えびの高原（硫黄山）周辺の浅いところを震源とする火山性地震が増加し、16 時までに 51 回発生しました。

本日、気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した現地調査では、硫黄山の火口周辺で引き続き噴気活動が認められました。赤外熱映像装置¹⁾による観測では、引き続き熱異常域を確認し、熱異常域の拡大傾向が認められました。

えびの高原（硫黄山）周辺では火山活動が高まっており、噴気や火山ガスなどが噴出し、今後状況によっては小規模な噴火が発生する可能性があります。

えびの高原の硫黄山から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

○活動概況

・地震や微動の発生状況（図 3、図 4）

本日（28 日）、えびの高原（硫黄山）周辺の浅いところを震源とする火山性地震が増加し、16 時までに 51 回発生しました。火山性微動は観測されていません。

・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 2）

本日、気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した現地調査では、硫黄山の火口周辺で引き続き噴気を確認しましたが、特段の変化は認められませんでした。赤外熱映像装置による観測では、引き続き熱異常域を確認し、熱異常域の拡大傾向が認められました。

遠望カメラによる観測では、噴気の状態に特段の変化は認められません。

・地殻変動の状況

傾斜計²⁾の観測データに特段の変化は認められません。

1) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

2) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがあります。1 マイクロラジアンは 1 km 先が 1 mm 上下するような変化です。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、宮崎県及び鹿児島県のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『基盤地図情報』『基盤地図情報（数値標高モデル）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

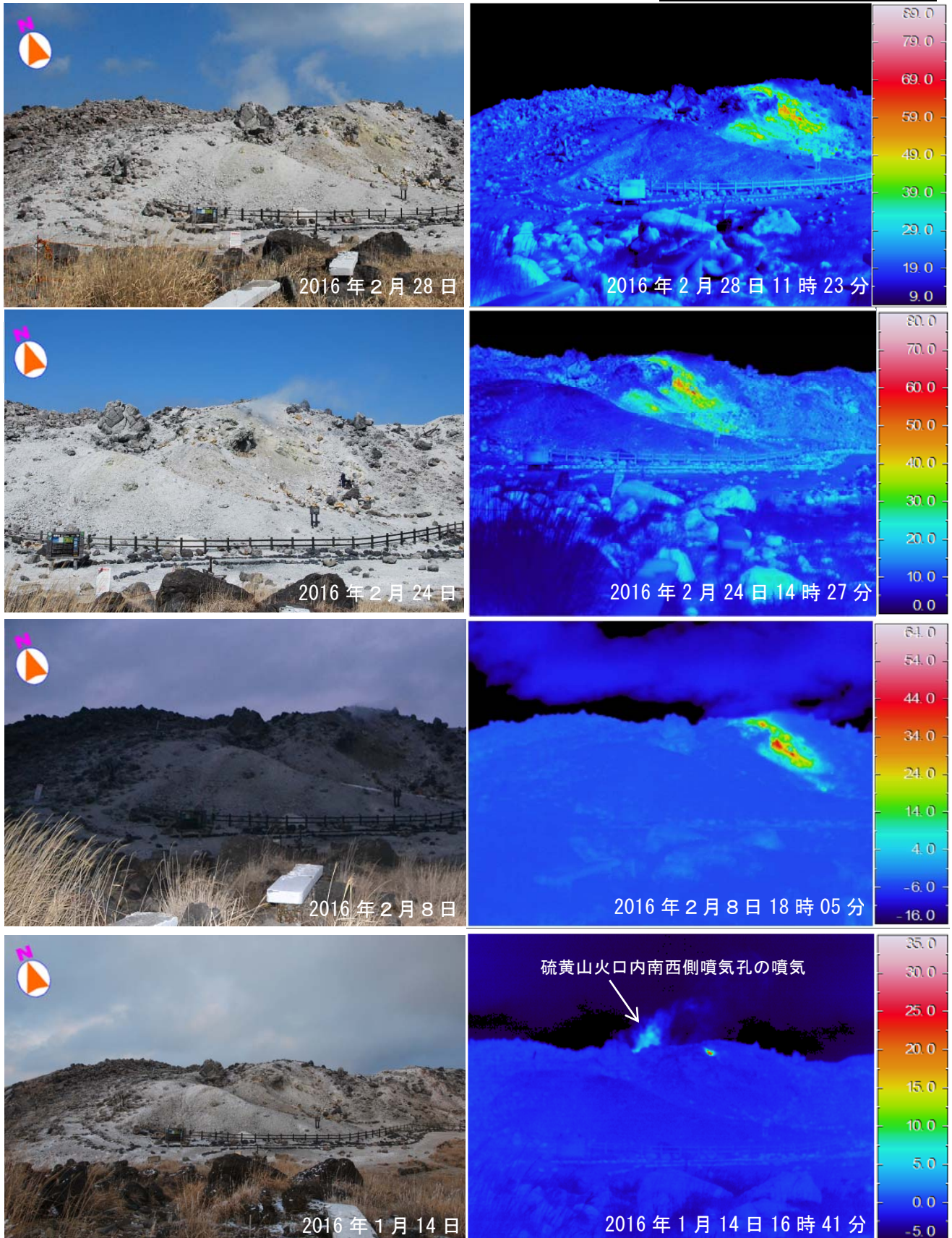


図1 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 硫黄山火口南西側の地表面温度分布

- ・硫黄山の火口周辺で引き続き噴気を確認しましたが、特段の変化は認められませんでした。
- ・硫黄山の火口南側斜面では、引き続き熱異常域を確認し、熱異常域の拡大傾向が認められました。

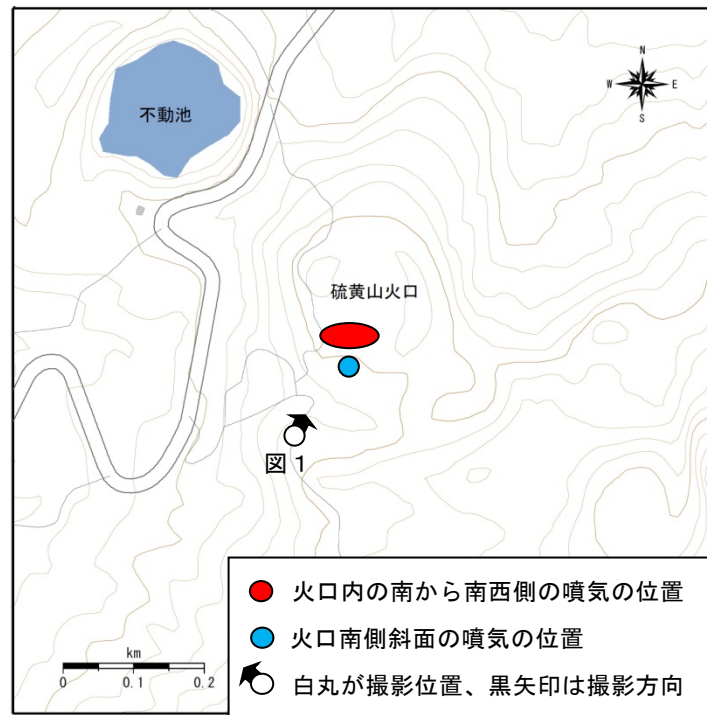


図 2 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 噴気の位置と図 1 の撮影位置

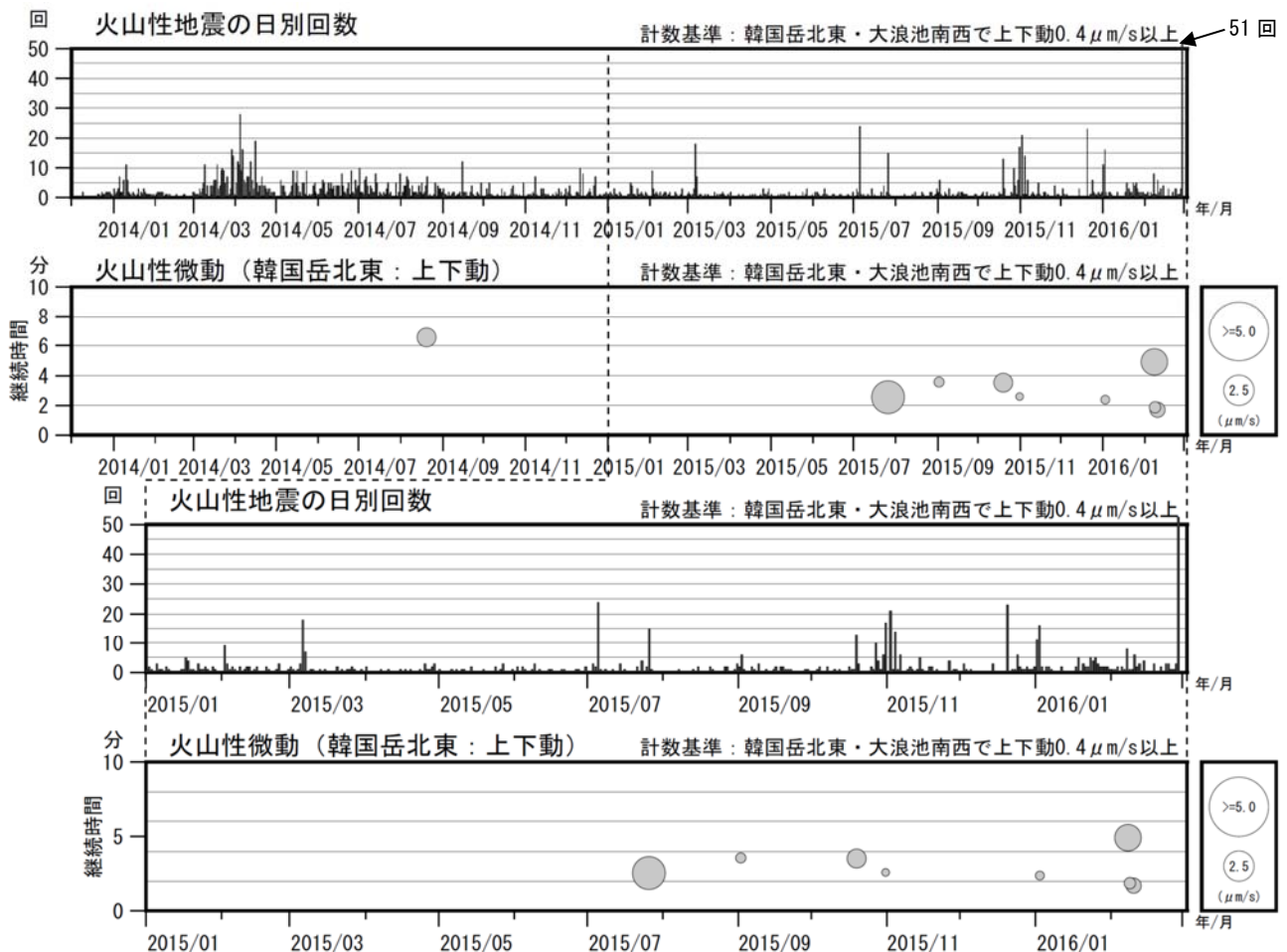


図 3 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 火山性地震と微動の発生状況
(2013 年 12 月 1 日～2016 年 2 月 28 日 15 時)

火山性地震は、本日（28 日）16 時までには 51 回発生しました。

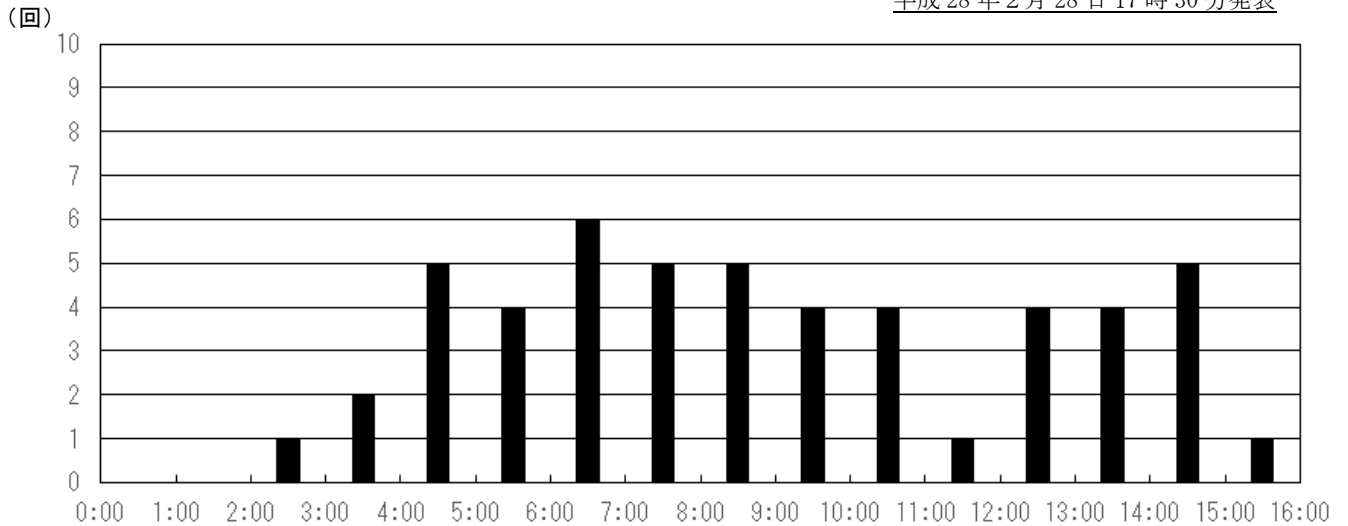


図 4 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 火山性地震の時別発生回数（28 日 0 時～16 時）

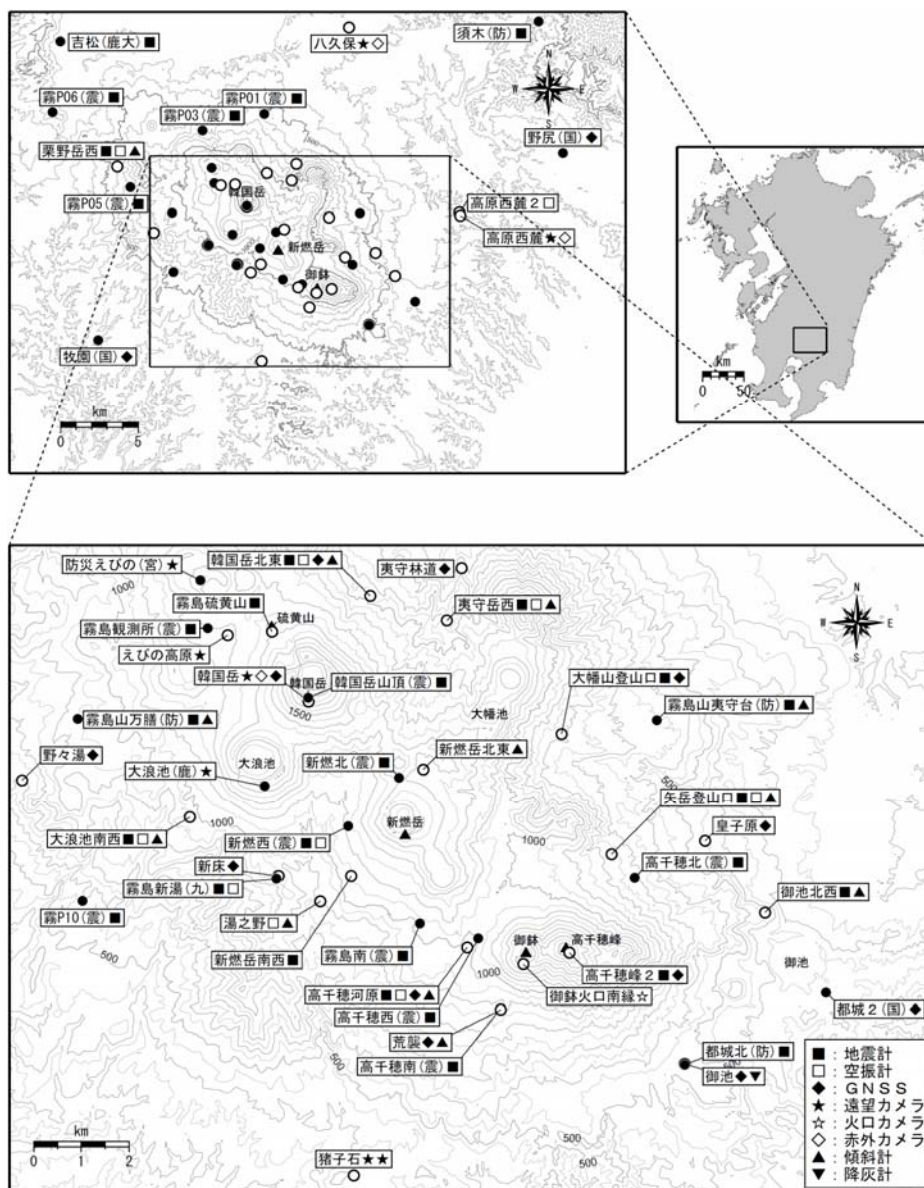


図 5 霧島山 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国) : 国土地理院、(防) : 防災科学技術研究所、(震) : 東京大学地震研究所
 (九) : 九州大学、(鹿大) : 鹿児島大学、(宮) : 宮崎県、(鹿) : 鹿児島県